ISSN：0037－3796

神経化学

Bulletin of the Japanese Society for Neurochemistry

Vol. 34 (No. 1), 1995

第38回 日本神経化学会プログラム号

平成７年５月

第38回　日本神経化学会
プログラム

【世話人代表】　中嶋照夫（京都府立医科大学精神医学教室）

【日　　時】　平成７年７月１日（土）・２日（日）

【会　　場】　国立京都国際会館
京都市左京区宝ヶ池
電話 075－705－1234
会期中の会館内学会事務局（Room157）
内線2357

7月1日（土）

〈ポスター発表〉　D・E・C1・C2会場

〈評議員会・総会〉　A会場

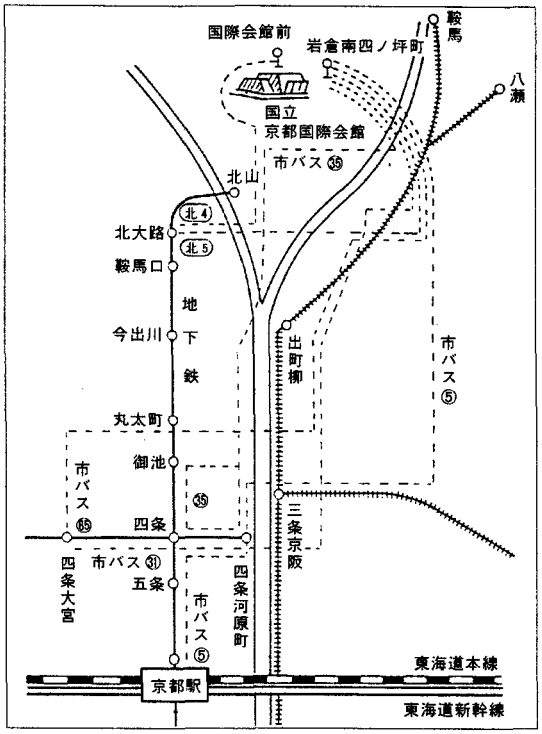
〈グループディナーカンファレンス〉
F・G・H・I・J・K会場

7月2日（日）

〈特別講演〉　A会場

〈懇親会〉　サクラ

国立京都国際会館への交通案内



◇市バスで・・・

※地下鉄北大路駅より

北４系統（岩倉実相院行）約15分

国立京都国際会館前下車

北５系統（岩倉操車場行）約25分

岩倉南四ノ坪町下車　徒歩５分

※阪急　四条河原町駅より

５・31系統（岩倉操車場行）約45分

岩倉南四ノ坪町下車　徒歩５分

※三条京阪駅より

５系統（岩倉操車場行）約35分

◇タクシーで・・・

※ＪＲ京都駅から　約40分，2,700円

※阪急四条河原町駅から　約30分，2,000円

※京阪出町柳駅から　約15分，1,200円

※地下鉄北大路駅より　約10分，1,000円

※地下鉄北山駅より　約５分，690円

◇自動車で・・・

※名神高速道路京都南インターチェンジから約50分

※名神高速道路京都東インターチェンジから約30分

シャトルバスの案内

１．地下鉄北山駅から国立京都国際会館まで下記の時間帯にシャトルバスを運行致しますのでご利用ください。

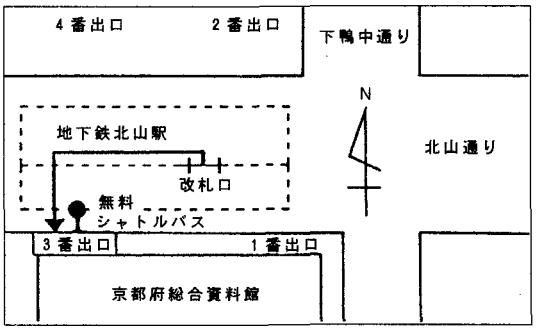
地下鉄北山駅発７／１：８時00分～10時00分

７／２：９時00分～11時00分（約10分間隔で運行します）

２．会議終了前後にも運行を予定しています。

地下鉄　北山駅
シャトルバス乗り場

３番出口を上がって下さい。
（JTBの社員が案内致します）



学会参加のご案内

1．**学会参加費をなるべく前納して下さるようお願い致します**（会場の都合で開始前の受付時間に余裕がありませんので，ぜひ皆様のご協力をお願い致します)。前納される方は，郵便為替で**6月15日（木）**までにお支払いください（なお，前納割引制度は4月30日をもって終了しております)。学会参加費を前納された方には**後日参加証（ネームカード）をお送り致しますので，当日お持ち下さい。**

区　分	項　　目	会　　員	非会員	納　入　方　法
前　納	学会参加費	4,000円	5,000円	第38回日本神経化学会まで 郵便振替＊ **6月15日（木）締切**
当　日	学会参加費	4,000円	5,000円	学会当日受付

＊郵便為替　01000－8－10623　第38回日本神経化学会

2．学会論文集は会員全員に配布致します。非会員で学会論文集をご希望の方は，学会事務センターにお申し出下さい（1冊　6,000円)。

3．**懇親会**（無料）は7月2日（日）午後6：30より学会会場内のサクラ（1階）で第15回国際神経化学会のWelcome Receptionと合同で行われます。皆様のご参加をお待ちしております。

4．年会費(7,000円)は，学会事務センターへお支払い下さい（必ず各会員の会員番号が記載された専用の振込用紙をご使用いただき，学会参加費振込用紙は使用しないでください)。年会費は学会当日，会場でも受け付けます。入会希望者は，学会事務センターにお問い合わせ下さい。

5．日本神経化学会への参加は，日本神経学会，日本小児神経学会および日本良導絡自律神経学会の認定医研修単位の対象となります。取得できる単位数等につきましては，直接それぞれの学会にご照会下さい。

世話人代表：中嶋　照夫（京都府立医科大学精神医学教室）
第38回日本神経化学会事務局
〒602　京都市上京区河原町通広十路上ル梶井町465
TEL：075－251－5612
FAX：075－251－5839

日本神経化学会
入会・年会費の問い合わせ：03－5814－5810（学会事務センター会員業務）
論文集の頒布について　　：03－5814－5811（学会事務センター事業部）
FAX：03－5814－5820

演者の方々へのお願い

1．演題を提出された方は，**英文抄録掲載料3,000円**を学会当日，各会場受付でお支払い下さい。

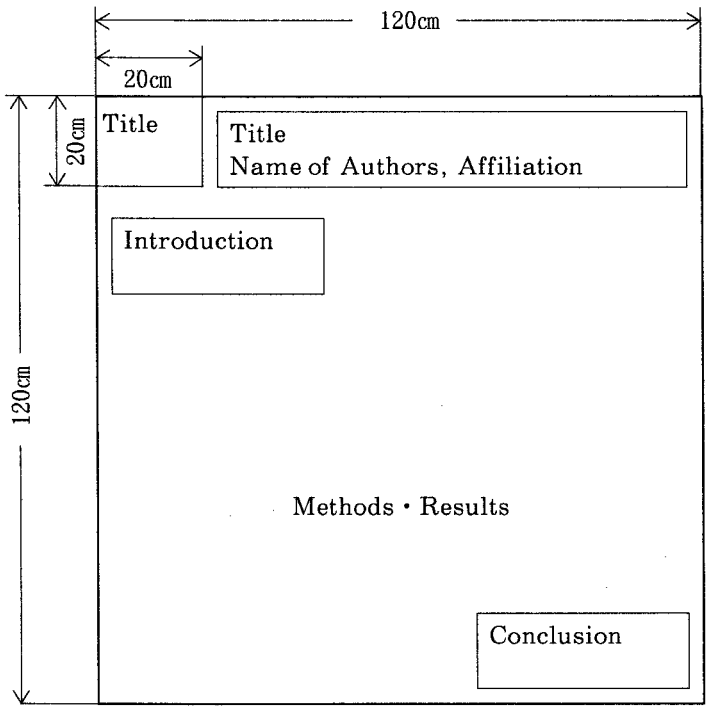
2．ポスター発表は次の通り行って下さい（配置は9－11頁をご参照下さい)。

a．発表者は7月1日の午前9時に所定の場所に貼付して下さい。掲載日当日一日は展示したままにして，午後5時に取り外して下さい。

b．ポスター討論は午前と午後に分けて行います。発表者は，ポスター討論時間（60分）には発表演題の前に待機して下さい。**なお、D会場では2セッションを、E会場では3セッションを同時進行します。**

c．ポスターの大きさは，横120cm×縦120cmです（下図参照)。
演題番号は事務局で用意します。**ポスターの記載は英文でお願い致します。例年と異なっておりますので御注意下さい。**

〈ポスターの形式〉



特 別 講 演

日　時：平成７年７月２日（金）　10：00～12：00，13：00～15：00
場　所：A会場（２階）

1．早石　修（大阪バイオサイエンス研究所）　10：00～11：00
睡眠調節の分子機構　－プロスタグランジンD_2とE_2の役割－
座　長　中嶋照夫（京都府立医科大学精神医学教室）

2．FS Walsh（UMDS：Guy's Hospital）　11：00～12：00
Department of Neuropathology
Molecular Basis of Cell Adhesion in the Nervous System
座　長　塚田裕三（創価大学生命研究所）
（　昼　　食　）　12：00～13：00

3．金澤一郎（東京大学医学部神経内科）　13：00～14：00
ハンチントン病の遺伝子を追って
座　長　栗山欣弥（京都府立医科大学薬理学教室）

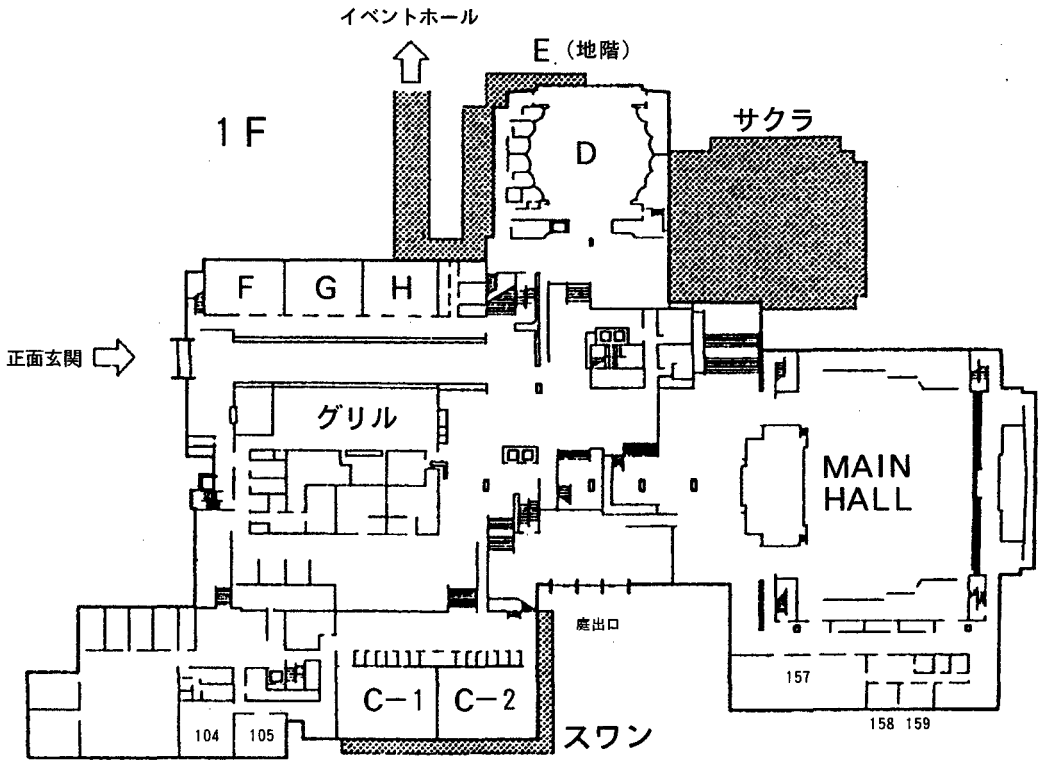
4．柿本泰男（愛媛大学医学部神経精神医学教室）　14：00～15：00
精神疾患が神経化学の研究対象となるために越えるべき課題
座　長　武富　保（信州大学医学部加齢適応研究センター）

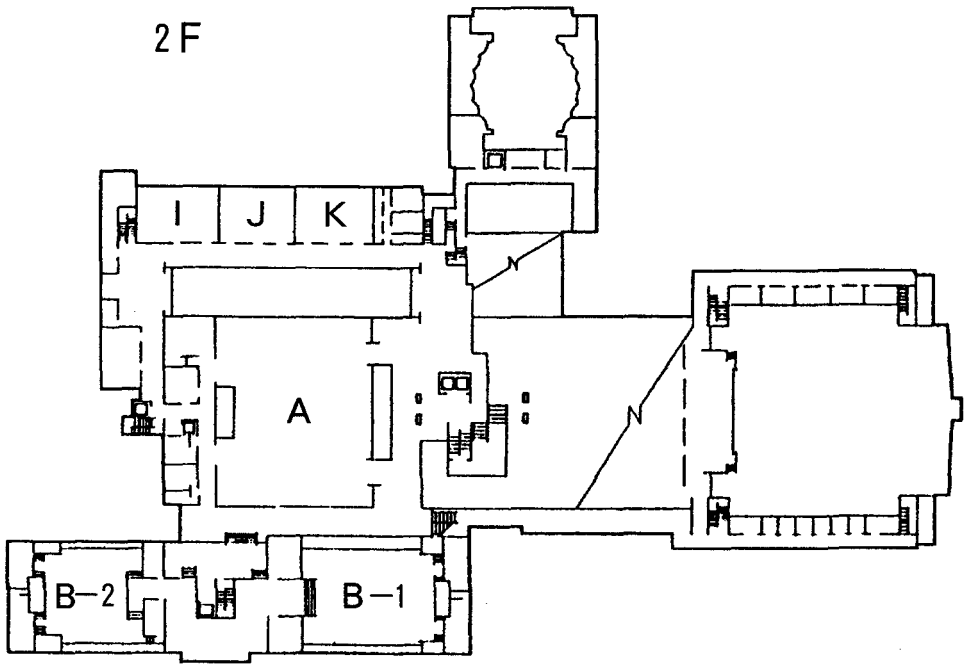
グループディナーカンファレンス開催のご案内

日　　時：７月１日（土）午後６時－８時30分
場　　所：国立京都国際会館　F，G，H会場（１F）
　　I，J，K会場（２F）
内　　容：12－13ページをご覧ください。
参加費用：1,500円（参加費は当日会場にてお支払いください）
参加申込：希望トピックス名（第２希望までご記入ください）、氏名、所属、住所、電話番号、FAX番号を往復ハガキに明記し、６月15日（木）までに下記の宛先まで申し込んでください。会場のサイズにより各グループとも定員20－35名とします。先着順に受け付けます。

〒602　京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
京都府立医科大学精神医学教室内
第38回日本神経化学会グループディナーカンファレンス係
Tel　075-251-5612
Fax　075-251-5839

会場案内図

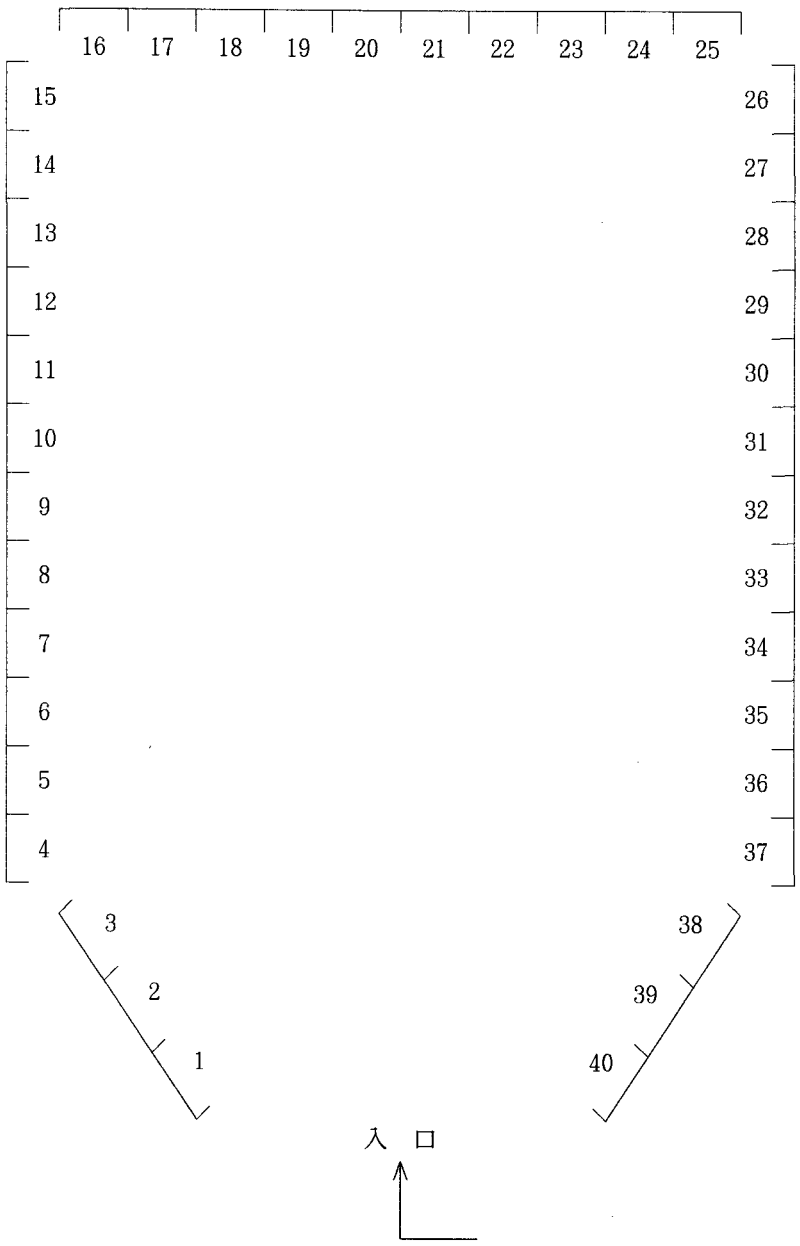

イベントホール
E（地階）
1F
D
サクラ
F
G
H
正面玄関
グリル
MAIN
HALL
庭出口
C−1
C−2
104
105
157
158 159
スワン


2F
I
J
K
A
B−2
B−1

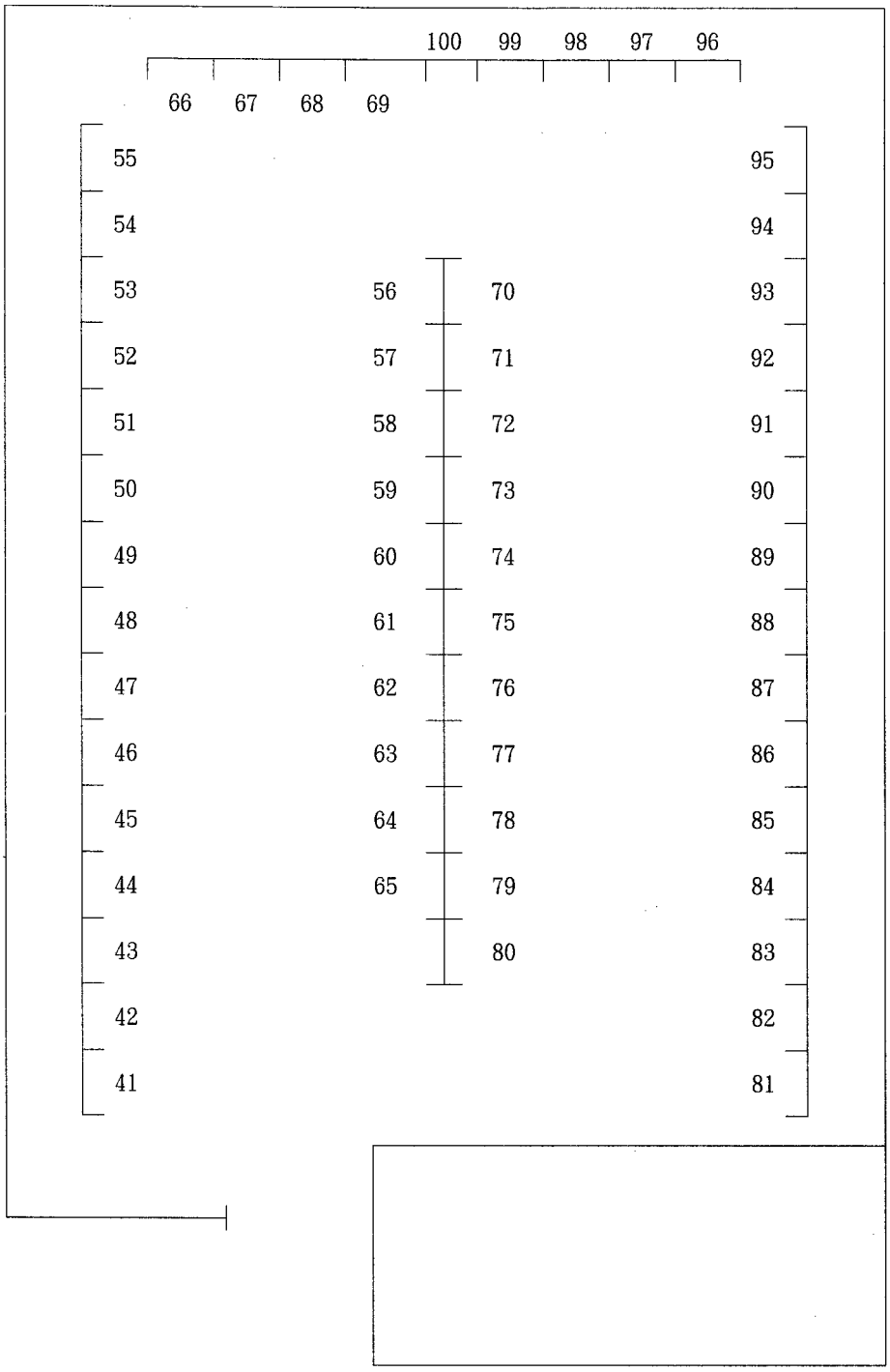
ポスター発表一覧表　7月1日（土）

	D会場（1F）	E会場（BF）	C1会場（1F）	C2会場（1F）
9：00	ポスター貼布			
10：00	**演題No.1～6**	**演題No.41～46**	**演題No.101～106**	**演題No.125～128**
	「分化・発育Ⅰ」	「神経伝達機構Ⅱ」	「遺伝子操作・発現Ⅲ」	「神経栄養因子Ⅰ」
	座長　磯辺　俊明	座長　野村　靖幸	座長　米田　幸雄	座長　古川　昭栄
	演題No.24～27	**演題No.62～65**		
	「行動・学習」	「情報変換機構Ⅱ」		
	座長　山上　　榮	座長　大鹿　英世		
		演題No.81～84		
		「疾患モデルⅡ」		
		座長　樋口　宗史		
11：00	**演題No.7～11**	**演題No.47～51**	**演題No.107～112**	**演題No.129～133**
	「分化・発育Ⅱ」	「神経伝達機構Ⅲ」	「免疫組織化学・再生・移植」	「神経栄養因子Ⅱ」
	座長　三木　直正	座長　馬場　明道	座長　高坂　新一	座長　佐野　　輝
	演題No.28～30	**演題No.66～69**		
	「軸索輸送・膜輸送」	「神経・精神疾患Ⅰ」		
	座長　加藤　泰治	座長　融　　道男		
		演題No.85～89		
		「疾患モデルⅢ」		
		座長　直井　　信		
12：00	昼　　食			
13：00	評議員会・総会（A会場）			
14：00	**演題No.12～17**	**演題No.52～56**	**演題No.113～116**	**演題No.134～137**
	「老化・痴呆・アルツハイマーⅠ」	「神経伝達機構Ⅳ」	「脳障害・虚血・細胞死Ⅰ」	「神経栄養因子Ⅲ」
	座長　武田　雅俊	座長　竹田　　稔	座長　小池　達郎	座長　畠中　　寛
	演題No.31～36	**演題No.70～74**		
	「神経伝達機構Ⅰ」	「神経・精神疾患Ⅱ」		
	座長　仲田　義啓	座長　永田　　豊		
		演題No.90～94		
		「遺伝子操作・発現Ⅰ」		
		座長　吉川　和明		
15：00	**演題No.18～23**	**演題No.57～61**	**演題No.117～120**	**演題No.138～141**
	「老化・痴呆・アルツハイマーⅡ」	「情報変換機構Ⅰ」	「脳障害・虚血・細胞死Ⅱ」	「細胞骨格・カルシウムⅠ」
	座長　山本　秀幸	座長　斎藤　利和	座長　片岡　喜由	座長　熊倉鴻之助
	演題No.37～40	**演題No.75～80**		
	「代謝・免疫」	「疾患モデルⅠ」		
	座長　武富　　保	座長　鍋島　俊隆		
		演題No.95～100		
		「遺伝子操作・発現Ⅱ」		
		座長　郭　　哲輝		
16：00			**演題No.121～124**	**演題No.142～145**
			「脳障害・虚血・細胞死Ⅲ」	「細胞骨格・カルシウムⅡ」
17：00			座長　加藤　　聖	座長　祖父江憲治

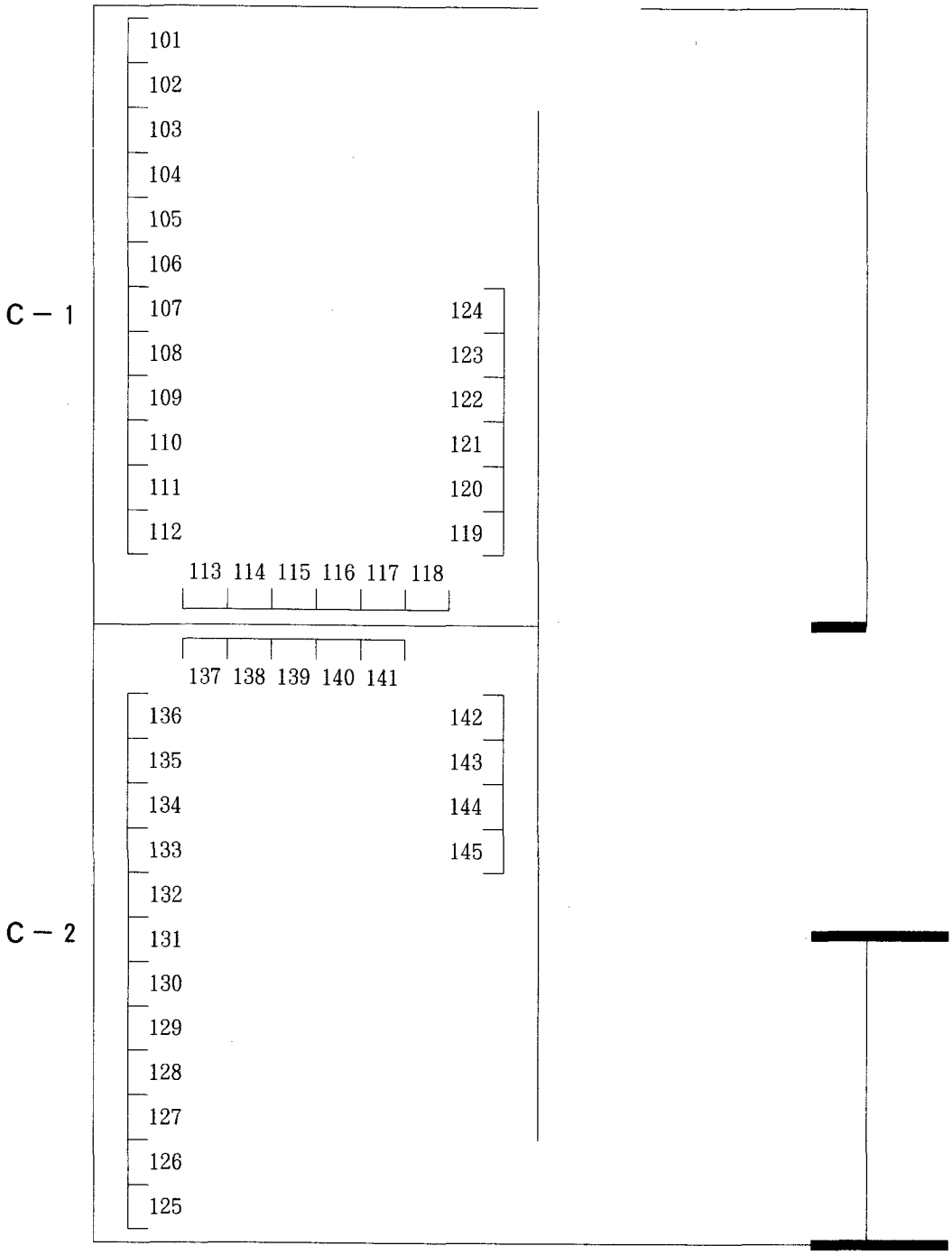
D会場（１Ｆ）ポスター配置図



E会場（BF）ポスター配置図



C－1・C－2会場（1F）ポスター配置図



グループディナーカンファレンス

7月1日（土）18：00〜20：30

1）神経成長因子（F会場）

オーガナイザー

赤　池　昭　紀（京都大学・薬学部・薬理）

下　濱　　俊（京都大学・医学部・神経内科）

1．下　濱　　俊（京都大学・医学部・神経内科）
グルタミン酸神経毒性に対するNGFおよびBDNFの保護作用

2．塚原　徹也（国立循環器病センター・脳神経外科）
脳虚血による細胞死に対するBDNFの保護作用

3．小　泉　信　一（日本チバガイギー・国際科学研）
ニューロトロフィンレセプターTrkAとTrkBの機能上の差について

4．伊　藤　信　行（京都大学・薬学部・遺伝子薬品）
FGF及びその受容体の脳内発現部位

2）生体リズムの分子機構（G会場）

オーガナイザー

岡　村　　均（神戸大学・医学部・解剖）

海老原　史樹文（名古屋大学・農学部・動物機能制御）

1．田　中　雅　樹（京都府立医科大学・解剖）
リズム同調に関する神経伝達経路

2．海老原　史樹文，吉　村　　崇（名古屋大学・農学部・動物機能制御）
網膜突然変異マウスを用いた概日受容物質の研究

3．海老澤　　尚（埼玉医科大学・精神）
メラトニン受容体の機能と構造

4．岡　村　　均，冨　永　恵　子[1]（神戸大学・医学部・解剖，[1]大阪大学・理学部）
視交叉上核の培養系

3）痴呆の生化学（H会場）

オーガナイザー

武　田　雅　俊（大阪大学・医学部・精神）

1．祖父江　憲　治（大阪大学・医学部・バイオメディカル教育研究センター神経化学）
脳動脈硬化症の発症機序への遺伝子発現制御からのアプローチ

2．稲　垣　昌　樹（東京都老人総合研究所神経生理部門）
細胞内シグナル伝達：細胞骨格リン酸化反応の特異性と多様性

3．松　井　秀　樹（岡山大学・医学部・第一生理学）
神経細胞の分化と老化に対するサイクリン依存性キナーゼの役割

4．森　　啓（東京都精神医学研究所・分子生物）
神経細胞変性に関するアミロイド蛋白の神経毒性を中心とした最近の話題

4）中枢神経系における一酸化窒素（NO）の役割（Ｉ会場）

オーガナイザー

中　木　敏　夫（慶應義塾大学・医学部・薬理）

岡　村　富　夫（滋賀医科大学・薬理）

1．井　上　正　康（大阪市立大学・医学部・生化学）
活性酸素病態とNeurovascular Network

2．大　熊　誠太郎，桂　　昌　司，栗　山　欣　弥（京都府立医科大学・薬理）
Nitric oxide誘発性神経伝達物質放出の特性について

3．中　原　公　宏，田　中　正　敏（久留米大学・医学部・薬理）
一酸化窒素と脳内ドーパミン神経系

4．片岡　泰文，山下樹三裕，丹羽　正美，谷山紘太郎（長崎大学・医学部・第二薬理）
脳虚血とエンドセリン／NO系

5）遺伝子転写調節（Ｊ会場）

オーガナイザー

米　田　幸　雄（摂南大・薬学部・薬理）

1．田　村　隆　明（千葉大学・理学部・生物学科・遺伝子生物学講座）
転写制御研究のストラテジーと神経生物学への適用

2．津　田　正　明（岡山大学・薬学部・微生物薬品化学講座）
グルタミン酸応答で誘起される遺伝子発現カスケード

3．今　川　正　良（大阪大学・薬学部・環境代謝化学講座）
遺伝子発現を負に制御する転写因子の解析

4．荻　田　喜代一（摂南大学・薬学部・薬理学研究室）
ｃ－Mycコア配列を認識する脳内蛋白質

6）薬物依存（Ｋ会場）

オーガナイザー

樋　口　宗　史（大阪大学・医学部・薬理）

福　居　顯　二（京都府立医大・精神）

1．石　原　武　士（岡山大学・医学部・神経精神医学教室）
Mcthamphetamine逆耐性現象における脳内転写制御因子の解析
－Methamphetamine急性および亜慢性投与によるAP－１結合活性の変化－

2．西　川　　徹（国立精神・神経センター神経研究所・疾病研究第３部）
精神異常発現薬による脳内の遺伝子発現の生後発達

3．大　杉　　武（大阪大学・医学部・第１薬理）
モルヒネ感受性１本鎖ＣＲＥ結合蛋白質の解析

4．福　居　顯　二（京都府立医科大学・精神）
中枢刺激剤および有機溶剤の神経毒性に関する形態学的研究

ポスター発表　7月1日（土）

D会場（1F）

10：00〜11：00（分化・発育　I）

座長：東京都立大　礒辺俊明

1　胚性腫瘍細胞の神経細胞分化における β－Citryl－L－Glutamate の変動
……　楢原正則、岩佐朱美、濱　堯夫、三宅正治
（神戸学院大学薬学部生理化学講座）

2　脊髄神経細胞の発達における Helix－loop－helix transcription factors の役割について
……　須田喜久夫、佐藤　潔
（順天堂大学・脳神経外科）

3　多能性神経幹細胞株における細胞の分化および多様性を制御する遺伝子群の発現
……　金子忠広[1,2]、中川康史[2,3]、貝淵弘三[1]、中村　俊[2]、中福雅人[1,2]
（[1]奈良先端大・バイオ、[2]国立精神神経センター・神経研、[3]東大医科研）

4　小脳形成期に特有なタンパク質の解析
……　内田和久[1,2]、中山　洋[1]、新開史子[1]、篠田友孝[1]、礒辺俊明[1]
（[1]東京都立大学、[2]協和発酵・東京研究所）

5　神経分化に関与する新規遺伝子 N16K の cDNA クローニング及びその解析
……　斎藤祐見子、丸山　敬[1]、川島誠一
（東京都臨床医学総合研究所・遺伝情報、[1]国立生理学研究所・神経化学）

6　末梢ミエリン構成蛋白質 PASⅡ／PMP22 の機能解析
……　武田泰生、宮崎唯雄、植村慶一
（慶応義塾大学・医学部・生理学教室）

10：00〜11：00（行動・学習）

座長：大阪市立大・医・神経精神医学教室　山上　榮

24　ラットの rebound hyperphagia に閉所ストレスを加えた時の摂餌行動と視床下部セロトニン代謝
……　井上幸紀[1]、切池信夫[1]、藤嵜泰利[1]、栗岡政典[1]、伊藤英樹[1,2]、奥野正景[1,3]、吉村敬一[1,4]、山上　榮[1]
（[1]大阪市立大学（医）神経精神医学教室、[2]宝塚三田病院、[3]三国丘病院、[4]浅香山病院）

25　ラットの時間制限給餌による rebound hyperphagia に閉所ストレスを加えた時の摂餌行動と側坐核ドパミン代謝
……　藤嵜泰利[1]、切池信夫[1]、井上幸紀[1]、栗岡政典[1]、奥野正景[1,2]、伊藤英樹[1,3]、山上　榮[1]
（[1]大阪市立大・医・神経精神医学教室、[2]三国丘病院、[3]宝塚三田病院）

26　トリのインプリンティング行動に関与する神経伝達物質の検索
……　塚田裕三、金松知幸、高原ひろみ、加藤久子
（創価大学・生命科学研究所）

27　脳老化促進マウスの学習・記憶力及び免疫機能低下の aFGF による防止
……　大村　裕[1]、佐々木和男[2]、李　愛軍[3]、吉井春夫、深田有理子、家後　壽[1]、遠山育夫[4]、花井一光[4]、木村　宏[4]、野村靖幸[5]
（日本臓器製薬（株）生物活性科学研、[2]富山大学工学部、[3]九州大学医学部、[4]滋賀医科大学、[5]北海道大学薬学部）

11：00～12：00（分化・発育　II）
座長：大阪大学・医学部・第一薬理　三木直正

7　ラット胎児脳に特異的に発現するタンパク質の解析
……　萩原民雄、青木和子、倉石　博、佐藤督忠、西垣　裕、竹田二美代、竹田　稔
（昭和大学医学部第1生化学）

8　ラット胎児脳の可溶性画分に存在する Rho GDI 様タンパク質
……　青木和子、倉石　博、佐藤督忠、西垣　裕、萩原民雄、竹田二美代、竹田　稔
（昭和大学・医・第1生化学）

9　ラット胎児脳可溶性画分に存在するサイクリン様タンパク質
……　倉石　博、青木和子、佐藤督忠、西垣　裕、萩原民雄、竹田二美代、竹田　稔
（昭和大学・医・第一生化学）

10　ラット胎児脳に特異的に発現する 35kDa タンパク質の解析
……　佐藤督忠、青木和子、倉石　博、西垣　裕、萩原民雄、竹田二美代、竹田　稔
（昭和大学・医・第一生化学）

11　ラット胎児脳に特異的に発現する 40kDa のタンパク質の解析
……　西垣　裕、青木和子、倉石　博、佐藤督忠、萩原民雄、竹田　稔
（昭和大学医学部第一生化学）

11：00～12：00（軸索輸送・膜輸送）
座長：名市大・医・分子医研・生体制御　加藤　泰治

28　*In vitro* 血液脳関門モデルの確立－アストロサイトによる物質透過性の変化－
……　磯部一郎、渡辺貴夫[1]、加藤泰治
（名市大・医・分子医研・生体制御、[1]同・薬・製剤）

29　K252a による培養小脳顆粒細胞移動抑制のメカニズム
……　田中聡一[1,2]、小林　聡[1]、林　謙介[1]、平井俊策[2]、白尾智明[1]
（[1]群馬大学医学部行動分析学、[2]同神経内科）

30　キネクチンの神経組織内分布
……　豊島　至、菅原正伯、加藤一麿、和田千鶴、正宗　研
（秋田大学医学部第一内科）

12：00～13：00　　―― 昼　　食 ――

13：00～14：00　　評議員会・総会（A会場）

14：00～15：00（老化・痴呆・アルツハイマー　I）

座長：大阪大・医・精神　武田雅俊

12　ハロセン麻酔による低体温老化ラットの髄液中神経化学物質濃度の検討

……　和田博夫、井藤英喜[1]、折茂　肇、佐藤昭夫[2]

（東京大・老年病、[1]都老人医療センター、[2]都老人総合研究所）

13　ヒト剖検脳を用いた正常老人・脳血管性痴呆老人及びAlzheimer型痴呆老人におけるHCNP遺伝子発現量の検討

……　松川則之[1,2]、岡田秀親[3]、小鹿幸生[1]、東藤直樹[4]

（[1]名古屋市立大学第二内科、[2]野依福祉村病院・長寿医学研究所、名古屋市立大学分子研・生体高分子、[4]住友製薬総合研究所・創業第三研究所）

14　細胞内に出現するAβについて

……　宇佐美美穂子、佐原成彦、森　　啓

（東京都精神医学総合研究所・分子生物学部門）

15　アルツハイマー病脳におけるニューロフィラメントの構成異常

……　中村　祐[1,2]、武田雅俊[1]、新川久義[3]、西村　健[1]

（[1]大阪大・医・精神、[2]小阪病院、[3]狭山病院）

16　ラット網膜および大脳皮質におけるカルレチニンおよびカルビンディンの加齢変化

……　山口知子、P. Papazafiri[1]、P. Podini[1]、J. Meldolesi[1]

（東京女子医科大学・生化学、[1]DIBIT San Raffaele Institute, Milano）

17　アルツハイマー型老年痴呆、アポリポ蛋白Eとエストロゲン

……　柏木知宏、本庄英雄、卜部　諭、岡田弘二、[1]林　正浩、[1]林　健蔵

（京都府立医科大学産婦人科、[1]奈良平城園）

14：00～15：00（神経伝達機構　I）

座長：広島大・医・総合薬・薬解　仲田義啓

31　亜鉛イオンによるUTP応答の抑制作用

……　小泉修一、井上和秀

（国立衛生試験所・薬理）

32　新規抗精神病薬OPC－14597のラット脳substance P神経系に及ぼす影響

……　井上敦子[1]、三木新也[1]、内田諭希[1]、菊地哲朗[2]、森田誠治[2]、仲田義啓[1]

（[1]広島大・医・総合薬・薬解、[2]大塚製薬・徳島新薬三研）

33　Pyridoxal phosphate－6－azophenyl－2', 4'－disulphonic acid（PPADS）はマウス脳シナプス膜におけるαβ－methylene ATP結合を増強する

……　堀　誠治、川村将弘、渡部和彦[1]、田中順一[1]、酒井　紀[2]

（東京慈恵会医科大学第1薬理、[1]同神経病理、[2]同第2内科）

34　CaMBP64の分子的性質とその組織分布

……　亀下　勇、藤澤　仁

（旭川医大・第一生化学）

35　PC12h細胞および初代培養神経細胞からの神経伝達物質の開口放出に対する抗HPC－1抗体の効果

……　九島洋一、山口和彦、藤原智徳、赤川公朗

（杏林大学　医学部　第二生理学教室）

36　開口放出のプライミング・ステップに対する抑制調節

……　御園生裕明、今泉美佳、池田　顕、熊倉鴻之助

（上智大学・生命研・神経化学）

15：00～16：00（老化・痴呆・アルツハイマー　Ⅱ）

座長：熊本大学医学部第一薬理　山本秀幸

18　タウはラットの組織で広く発現している

……　顧　擁軍、小山文隆、井原康夫

（東京大学医学部脳研病理）

19　アルツハイマー病脳の神経原線維変化に存在する燐酸化タウの脱燐酸化反応

……　小野常彦[1,2]、山本秀幸[1]、田島和周[1]、久永真市[3]、岸本健雄[3]、宮川太平[2]、宮本英七[1]

（熊本大・医・[1]第一薬理、[2]神経精神医学、[3]東工大生命理工）

20　B型MAO阻害剤、deprenyl、の慢性投与による老齢マウス脳内の生化学的老化マーカーの変動

……　江頭　亨

（大分医科大学　薬理学教室）

21　軽微な頭部頻回衝撃によるタウ蛋白の変化－Alzheimer病の病理過程との関連性－

……　金山　巌、武田雅俊、新川久義、工藤　喬、西村　健

（大阪大学医学部精神医学教室）

22　アルツハイマー病脳上清におけるモノクローナル抗体Tau－1とPHF－1を用いた非PHFリン酸化タウの定量

……　以倉康充、工藤　喬、Inge Grundke－Iqbal[1]、Khalid Iqbal[1]、武田雅俊、西村　健

（大阪大学医学部精神医学教室）

（[1]New York State Institute for Basic Research in Developmental Disabilities）

23　無血清初代培養神経細胞における過剰リン酸化タウの発現と、低濃度オカダ酸の長期暴露による変化について

……　柏木雄次郎、工藤　喬、中村　祐、以倉康充、武田雅俊、西村　健

（大阪大学医学部精神医学教室）

15：00～16：00（代謝・免疫）

座長：信大・医・加齢適応研究センター・神経加齢　武富　保

37　マウス神経芽腫細胞における各種複合脂質の塩基へのグリシンの間接的関与の^{15}N安定同位体元素による解析

……　武富　保、上村敬一、倉橋　寿[1]

（信大・医・加齢適応研究センター・神経加齢、[1]松本歯大・薬理）

38　NMR－スペクトロスコピー法による^{13}C－ブドウ糖投与に伴うラット脳内アミノ酸代謝の研究

……　金松知幸、高原ひろみ、塚田裕三

（創価大学生命科学研究所）

39　サル末梢神経ミエリン糖蛋白質糖鎖の構造解析
……　北村邦男、坂本　安、吉村和法、渋谷匡子、寺田庄一、野村恭一[1]、野村正彦
（埼玉医大・第一生理、[1]神経内科）

40　グリオーマに対するOK－MC（OK－432－activated mononuclear cells）養子免疫療法におけるFas/Fas ligand系の関与
……　戸田啓介[1,2]、白石哲也[1]、広津辰美[1]、福山幸三[1]、峯田寿裕[1]、田渕和雄[1]
（[1]佐賀医科大学脳神経外科、[2]同法医学講座）

E会場（BF）

10：00～11：00（神経伝達機構　II）
座長：北海道大学薬学部薬効学　野村靖幸

41　ラット海馬からの［^{3}H］ノルアドレナリン放出－NO donorによる促進－
……　佐藤壮一、村山俊彦、野村靖幸
（北海道大学薬学部薬効学講座）

42　一酸化窒素（NO）誘発性［^{3}H］GABA放出機構
……　大熊誠太郎、桂　昌司、陳　大志、栗山欣弥
（京都府立医科大学・薬理）

43　拘束ストレス時におけるラット海馬アセチルコリン放出と血中エピネフリン、ノルエピネフリン、血糖の変化
……　田島稔久、遠藤英俊、鈴木祐介[1]、伊苅弘之[1]、井口昭久[1]、後藤峰弘[2]
（中部病院・老年科、[1]名古屋大学・老年科、[2]愛知医科大学・臨床検査）

44　ベラトリジン刺激アミノ酸系伝達物質放出のγ－アミノ酪酸による調節機構
－in vivo脳内微小透析法およびCa流入実験による検討－
……　田中佐知子、土田晃敬、佐藤陽一、木内祐二[1]、小口勝司[1]、吉田武美
（昭和大・薬・毒物学、[1]医・第一薬理学）

45　セロトニンによるラット前頭葉アセチルコリン分泌の制御機構（III）：背側縫線核電気刺激の影響
……　平野　均、山田通夫、H. C. Fibiger[1]
（山口大学医学部神経精神科、[1]ブリティシュ・コロンビア大学医学部精神科）

46　セロトニンによるラット前頭葉アセチルコリン分泌の制御機構（IV）：5－HT_3受容体の役割
……　平野　均、山田通夫
（山口大学医学部神経精神医学講座）

10：00～11：00（情報変換機構　II）
座長：札幌医科大学医学部薬理学講座　大鹿英世

62　小脳選択性を示す抗リン酸化チロシン抗体陽性蛋白質
……　米田幸雄、荻田喜代一
（摂南大・薬・薬理）

63　PC12細胞分化へのCa^{2+}／カルモデュリン依存性プロテインキナーゼII強制発現の影響とMAP 2燐酸化反応
……　田島和周、山本秀幸、小野常彦、宮本英七
（熊本大・医・第一薬理）

64 Sodium fluoride によるホスホリパーゼCの抑制作用
…… 西田　朗[1]、福田裕恭[1,2]、清水雅美[1]、斎藤　浩[2]、山脇成人[2]
([1]国立呉病院臨床研究部、[2]広島大神経精神)

65 組換え型14－3－3蛋白質によるトリプトファン水酸化酵素活性化の分子機構
…… 市村　徹、内山順二、伊藤美津樹、堀米恒好、小俣三郎、国広冲之[1]、梶　裕之[1]、磯辺俊明[1]
(新潟大理学部化学、[1]東京都立大学理学部生物化学)

10：00～11：00（疾患モデル　Ⅱ）

座長：大阪大学・医・第一薬理　樋口宗史

81 ペンチレンテトラゾール誘発痙攣によるマウス大脳皮質プロテインキナーゼCの動態
…… 古塚大介[1]、黒田陽子[1]、木岡哲郎、勝元栄一[1]、横谷　昇[2]、尾崎宣洋[1]、中西亜紀[1]、山上　榮[1]
([1]大阪市立大学医学部神経精神医学教室、[2]大阪市立大学医学部附属刀根山結核研究所)

82 EL マウスにおける脳内 SOD 活性の発作履歴及び発達過程における変化
…… 村島善也、鈴木二郎[1]
(都精神医学研・神経生理、[1]東邦大学・医・精神医学)

83 キンドリングけいれん誘発ラットの海馬における AP－1 DNA 結合活性の経時変化
…… 柏原健一、佐藤圭子[1]、石原武士[2]、秋山一文[2]、庄盛敏廉
(岡山大学・神経内科、[1]国立療養所南岡山病院・臨床研究部、[2]岡山大学・神経精神科)

84 発作間欠期の El マウス脳における AP－1 DNA 結合能と発作感受性との相関について
…… 勝元栄一、尾崎宣洋、横谷　昇[1]、古塚大介、山上　榮
(大阪市立大学医学部神経精神医学教室、[1]大阪市立大学医学部附属刀根山結核研究所)

11：00～12：00（神経伝達機構　Ⅲ）

座長：大阪大学・薬学部・薬理　馬場明道

47 ATP 感受性 K^+ チャンネルブロッカーの線条体ドパミン放出に及ぼす影響
…… 田中隆彦、吉田真美、横尾秀康、溝口克弘、長森　健、浜田直之、富田　克、田中正敏
(久留米大・医・薬理)

48 Benzazepine 系薬物によるラット線条体の一過性 dopamine 遊離機構
…… 富山勝則、越川憲明、小林雅文
(日本大・歯・薬理)

49 一酸化窒素による神経終末セロトニン取り込みの抑制作用
…… 浅野省一、松田敏夫、田熊一敞、馬場明道
(大阪大学・薬学部・薬理)

50 フェレット腸管からのセロトニン脱顆粒と求心性迷走神経活動におよぼす強心配糖体の影響
…… 玉飼博之、小川隆志、浜上尚也、遠藤　泰、南　勝
(北海道医療大学薬学部薬理学教室)

51 低張あるいは高張溶液灌流下における NMDA 誘発細胞外ドーパミン増加作用
…… 菅原　恵、芝軒信次、秦　英代[1]、石川紘一
(日本大学・医学部・薬理、[1]民生科学協会・総合研)

11：00～12：00（神経・精神疾患　Ⅰ）

座長：東京医科歯科大・医・神経精神　融　道男

66　新規ドーパミンD3、D4受容体アンタゴニスト YM－43611 の生化学的性質について

……日高和幸、多田祥子、松本光之、山口時男

（山之内製薬株式会社・第一創薬研究所）

67　ラット脳内の末梢型ベンゾジアゼピン受容体の生後発達及びハロペリドール反復投与による変化

……車地暁生、兼子幸一、融　道男

（東京医科歯科大学医学部・神経精神医学教室）

68　ラット大脳皮質アストロサイトにおけるセロトニン受容体によるアデニル酸シクラーゼの活性化と抗うつ薬の慢性効果

……清水雅美[1]、西田　朗[1]、福田裕恭[1,2]、斎藤　浩[2]、山脇成人[2]

（[1]国立呉病院臨床研究部、[2]広島大神経精神）

69　脳の転写因子（AP－1）と DNA 結合能におよぼす抗精神病薬の影響について

……尾崎宜洋[1]、勝元栄一[1]、横谷　昇[2]、古塚大介[1]、山上　榮[1]

（[1]大阪市立大学医学部神経精神医学教室、[2]大阪市立大学医学部附属刀根山結核研究所）

11：00～12：00（疾患モデル　Ⅲ）

座長：名古屋工業大学　直井　信

85　パーキンソニズムを惹起する神経毒1, 2－dimethyl－6, 7－dihydroxyisoquinolinium ion のヒト脳内分布と生合成に関する研究

……丸山和佳子[1]、高橋　勤[2]、直井　信[3]

（[1]名古屋大医学部神経内科、[2]江南女子短期大学、[3]名古屋工業大学）

86　Neuropeptide Y の中枢神経内 Dopamine Release に及ぼす影響と高血圧における意義について

……津田和志、増山善明[1]、Menek Goldstein[2]

（和歌山県立医科大学循環器内科、[1]東京労災病院、[2]New York University Medical Center）

87　サイトカイン産生腫瘍のマウス脳転移モデルの作成について

……中井真通、高内　茂、山口　徹、保田　稔、柿木達也、前田　潔、田中千賀子

（兵庫県立高齢者脳機能研究センター）

88　遺伝的運動障害ラットの脳内モノアミン量およびそれらの代謝物の変動

……國井修一[1,4]、田丸政男[2]、Dekker－Ohno京子[3]、藤田公和[4]、安藤正人[4]、永田　豊[4]

（[1]椙山女学園大、[2]鈴鹿医科技大、[3]名大環医研、[4]藤田保衛大・医・生理）

89　実験的小頭症ラット線条体のドーパミン及びその代謝物の変化：in vivo microdialysis 法による検討

……田丸政男、平田ゆかり[1]、松谷天星丸[2]、永田　豊[2]

（鈴鹿医療大・医用工学、[1]藤田保健衛生大・医・法医、[2]同生理）

12：00～13：00　――― 昼　　食 ―――

13：00～14：00　評議員会・総会（A会場）

14：00〜15：00（神経伝達機構　Ⅳ）

座長：昭和大・医学部・第一生化　竹田　稔

52　ラット海馬におけるドーパミンD_2型受容体の分布とその特性－in vitro レセプターオートラジオグラフィーによる［^{3}H］YM－09151－2の結合部位について

……横山ちひろ、岡村　均、井端泰彦（京都府立医科大学・第二解剖）

53　ラット脳におけるドーパミンD4レセプター mRNA の分布－TTダイマー法による In situ ハイブリダイゼーション－

……清水義雄、秋山一文、浜村貴史、小路武彦[1]、黒田重利（岡山大学医学部神経精神医学教室、[1]長崎大学医学部第三解剖学教室）

54　ラット大脳皮質 NMDA 受容体イオンチャンネル活性化状態の多様性

……山本敏文[1,2]、山本秀子[1]、諸治隆嗣[1]（[1]東京都精神医学総合研究所・精神薬理、[2]横浜市立大学大学院総合理学研究科・分子認識）

55　初代培養神経細胞を用いた *in vitro* 実験系における σ－1受容体の薬理学的特性

……山本秀子[1]、山本敏文[2]、奥山　茂[3]（[1]東京都精神研・精神薬理、[2]横浜市大・分子認識、[3]大正製薬・創薬研）

56　ラット前脳における CCK－B 受容体を介した神経伝達：Double－labeling in situ hybridization を用いた解析

……重吉康史、岡村　均、阿部廣巳[1]、井端泰彦、千原和夫[1]（京都府立医大第二解剖、[1]神戸大学第三内科）

14：00〜15：00（神経・精神疾患　Ⅱ）

座長：藤田保健衛生大学・医・生理　永田　豊

70　ラット小脳内N－メチル－D－アスパラギン酸認識ドメイン DE NOVO 生合成のストレスによる促進

……韓大健[1]、荻田喜代一、米田幸雄（[1]マリオン・メレル・ダウ株式会社開発研究所枚方センター、摂南大・薬・薬理）

71　筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者脊髄から得られた特異タンパク質の解析

……藤田公和、安藤正人、永田　豊、本多虔夫[1]、松井太衛[2]、千谷晃一[2]（藤田保健衛生大・医・生理、[1]横浜市立市民病院、[2]総医研・医高分子）

72　Machado－Joseph 病の遺伝子変異の特徴

……丸山博文、中村重信、松山善次郎、川上秀史（広島大学医学部第三内科）

73　ベル麻痺の原因ウイルスの同定

……村上信五、中城有喜[1]、土居孝至[1]、武田良平[1]、溝淵睦彦[1]、羽藤直人、柳原尚明（愛媛大学医学部耳鼻咽喉科学教室、[1]神経精神医学教室）

74　アルコール中毒症発症機序におけるアデノシンの役割－アデノシンA1受容体遺伝子を導入した NG108－15 細胞におけるエタノールの影響－

……浅井清文[1]、石井　晃[2]、Adrienne S. Gordon、Ivan Diamond（Ernest Gallo Clinic and Research Center and Department of Neurology, University of California, San Francisco、[1]名古屋市立大学医学部分子医学研究所生体制御部門、[2]浜松医科大学法医学教室）

14：00～15：00（遺伝子操作・発現　I）

座長：大阪大学・蛋白研・蛋白機能制御　吉川和明

90　Nicotine 曝露に伴う脳内 diazepam binding inhibitor（DBI）mRNA 発現増強機序の解析

……　桂　昌司、大熊誠太郎、栗山欣弥

（京都府立医科大学薬理学教室）

91　中枢神経系の幹細胞に強く発現している RNA 結合蛋白質 mouse－Musashi の同定と機能解析

……　榊原伸一[1,3]、今井貴雄[1]、小川正晴[2]、御子柴克彦[3]、岡野栄之[1]

（[1]筑波大・基礎医・分子神経生物、[2]高知医大・第２生理、[3]東大医科研・化学）

92　海馬 CA1 錐体細胞による NOSmRNA の発現

……　遠藤光敏、植村研一

（浜松医科大学　脳神経外科）

93　Deletion mutant RNA を内部標準に用いた RT－PCR/HPLC による組織中微量 NGFmRNA の定量法の開発

……　清水博喜、黒木　淳、荒川義弘、山西嘉晴

（エーザイ株式会社・筑波研究所）

94　抗うつ薬連投によるセロトニン２C受容体 mRNA 発現

……　東田道久、渡辺裕司

（富山医科薬科大学・和漢薬研究所・生物試験部門）

15：00～16：00（情報変換機構　I）

座長：札幌医科大学医学部精神医学講座　斎藤利和

57　カルバコール刺激による白鼠上頸神経節内トランスグルタミナーゼ活性化に至る NO 情報伝達様式と SOD 酵素の関与

……　安藤正人、立岔延族、楠戸正子、藤田公和、永田　豊

（藤田保健衛生大・医・生理）

58　C６細胞における hsp27 およびαBクリスタリンのストレス応答：サイクリック AMP を介する修飾

……　加藤兼房、伊東秀記、長谷川かおり、稲熊　裕、小澤　修、浅野富子

（愛知県コロニー・研・生化）

59　C６細胞における hsp27 およびαBクリスタリンのストレス応答：ホルボールエステルおよびオカダ酸による促進

……　加藤兼房、稲熊　裕、伊東秀記、長谷川かおり、浅野富子、小澤　修

（愛知県コロニー・研・生化）

60　C６細胞における hsp27 およびαBクリスタリンのストレス応答：プロスタグランジンによる修飾

……　伊東秀記、稲熊　裕、長谷川かおり、加藤兼房

（愛知県コロニー・研・生化）

61　大脳皮質βアドレナリン受容体－Gs－アデニル酸シクラーゼ情報伝達系機能調節へのビタミンB_{12}の関与

……　八田愼一、渡部正行[1]、小沢寛樹[1]、斎藤利和[1]、高畑直彦[1]、大鹿英世

（札幌医科大学医学部薬理学講座、[1]神経精神医学講座）

15：00～16：00（疾患モデル　Ⅰ）

座長：名古屋大学・医・医療薬学・薬剤部　鍋島俊隆

75　Phencyclidine 誘発行動の耐性および逆耐性発現における一酸化窒素の関与

…… 山田清文、野田幸裕、鍋島俊隆

（名古屋大学・医・医療薬学・薬剤部）

76　メタンフェタミンおよびフェンサイクリジンの脳グルタミン酸トランスポーター（GLT－1）免疫活性に対する部位特異的効果

…… 白川　治、梶本康雄、白井　豊、楊　常青、北村　登[1]、斎藤尚亮[2]、西野直樹

（神戸大学医学部・精神神経科、[1]神鋼病院・神経科、[2]神戸大学バイオシグナル研究センター・分子薬）

77　methamphetamine 反復投与の phencyclidine 誘発行動に及ぼす影響

…… 本藤久雄、中村　薫、中原辰雄[1]、松本　孝、堤　哲之、橋本喜次郎、河村幸佐、平野　誠、内村英幸

（国立肥前療養所・情動行動障害センター、[1]九州大学・理・化学教室）

78　肝性脳症モデルラットの脳内 $5-HT_2$ 受容体に関する研究

…… 兼子幸一[1]、車地暁生[1]、山田佐登留[2]、藤代　博[1]、渡辺明子[1]、融　道男[1]

（[1]東京医科歯科大学神経精神医学教室、[2]東京都立梅ヶ丘病院）

79　ラット脳内モノアミンおよびアセチルコリン濃度変化におけるイサチンの役割

…… 浜上尚也、遠藤　泰、平藤雅彦、南　勝、富樫広子[1]、松本真知子[1]、斎藤秀哉[1]

（北海道医療大・薬・薬理、[1]北海道大・医・第一薬理）

80　近交系マウスを用いた選抜育種による逆耐性モデル動物の作成；線条体におけるドパミン代謝の変化

…… 盛政忠臣、干場純治[1]、金行孝雄[2]、庄盛敏廉

（岡山大学医学部神経内科、[1]同動物実験施設、[2]岡山県立大学）

15：00～16：00（遺伝子操作・発現　Ⅱ）

座長：大阪大・医・薬理　郭　哲輝

95　グルタミン酸レセプター活性化で誘起される遺伝子発現カスケードの解析

…… 津田正明、佐野訓明

（岡山大学・薬学部・微生物）

96　γ－ヒドロキシ酪酸によるマウス小脳顆粒細胞初代培養系の核内 CRE および AP－1 DNA 結合活性増加における Ca^{2+} の関与

…… 石毛久美子、伊藤芳久、福田英臣

（日本大・薬・薬理）

97　低酸素・再酸素化により発現誘導される新規 RNA スプライシング調節因子
－アストロサイトの in vitro 低酸素モデルを用いて－

…… 松尾徳幸[1,5]、小川　智[2]、今井祐二[4]、高木　勉[4]、山下俊英[3]、甲村英二[3]、早川　徹[3]、遠山正彌[1]、和中明生[1]

（大阪大学医学部　[1]第二解剖、[2]第一内科、[3]脳神経外科、[4]分子脳機構（田辺）、[5]大日本製薬）

98　1本鎖 CRE 結合蛋白質（ssCRE－BP）の DNA 結合活性を増加させる因子について

…… 大杉　武、丁　云、三木直正

（大阪大・医・第一薬理）

99　ラット・ヒポカルシンのゲノム遺伝子の解析

…… 小林正明、斎藤茂治、黒木貴夫[1]、斎藤　優、野口鉄也、高松　研

（東邦大学・医学部・第二生理、[1]第一脳外）

100 トランスジェニックフィッシュによるNecdin遺伝子プロモーター活性と神経特異発現の検討
…… 郭　哲輝、金　哲熙、田中秀和、植月太一[1]、吉川和明[1]、岡本　仁[2]、三木直正
（大阪大学・医・薬理、[1]大阪大学・蛋白研、[2]慶応大・生理）

C１会場（１F）

10：00～11：00（遺伝子操作・発現　Ⅲ）
座長：摂南大・薬・薬理　米田幸雄

101 アデノウィルスを介したラット脳内へのドパミンD２受容体の遺伝子移入
…… 伊苅弘之、Mastrangeli A[1]、加藤修一[3]、Zhang L[2]、Chenak JM[2]、kuo H[2]、Crystal RG[1]、Ingram DK[2]、Roth GS[2]
（名古屋大学医学部老年科、[1]Cornell University Medical School, [2]National Institute on Aging／NIH, [3]山形大学第一内科）

102 Z型Myc配列を認識する核内蛋白質の探索
…… 荻田喜代一、米田幸雄
（摂南大学・薬・薬理）

103 ヒト肝臓GTP cyclohydrolase Ⅰの精製と性質
…… 坂本秀生、藤田　興、池亀　守[1]、永津俊治[2]、葛谷博磁
（藤田保健衛生大学・総医研・分子生物学、[1]短期大学・生体機能代行装置学、総医研・神経化学）

104 ２次元ゲル小脳タンパク質データベース構築のための新しいタンパク質構造解析法
…… 中山　洋[1]、内田和久[1,2]、田岡万悟[1]、金井みち子[3]、瀬田和夫[1]、磯辺俊明[1]、篠田友孝[1]、奥山典生[4]
（[1]東京都立大学理学部、[2]協和発酵東京研究所、[3]フィニガンMAT、[4]神奈川歯科大歯科生体工学）

105 ２次元電気泳動や２次元HPLCとMALDI－TOF質量分析法を組み合わせた脳のタンパク質のマッピング
…… 瀬田和夫、中山　洋、磯辺俊明、Arnd Ingendoh[1]、金井みち子[1]、奥山典生[2]
（都立大・理、[1]フィニガンMAT、[2]神奈川歯科大・生体工学）

106 マウス間脳神経細胞におけるアロマターゼ発現調節機構の解析
…… 堂前純子[1]、田中　亮[1]、原田信広[2]
（[1]名市大・医・生化Ⅰ、[2]藤田保衛大・総医研・分子遺伝）

11：00～12：00（免疫組織化学・再生・移植）
座長：国立精神・神経センター，神経研，代謝　高坂新一

107 ラット小脳初代培養神経細胞に特異的に発現されるガングリオシドの解析
…… 川島育夫、永田　功[1]、田井　直
（都臨床研・腫瘍免疫、[1]都神経研・細胞生物）

108 縦隔悪性腫瘍の患者血清に認められた抗神経細胞抗体の抗原分布とその特異性
…… 吉村和法、金子　厚[1]、山室　裕、細川　武[1]、北村邦男、濱口勝彦[1]、野村正彦
（埼玉医科大学・第一生理、[1]神経内科）

109 グルタチオンS－トランスフェラーゼ（GST）融合蛋白質として発現させたグルココルチコイドレセプターに対する抗血清の作製
…… 森本昌史、森田規之、河田光博
（京都府立医科大学・第一解剖）

110 E2F及びE1Aの発現によって誘発される成熟神経細胞のDNA合成能について
…… 須田喜久夫、佐藤　潔
（順天堂大学・脳神経外科）

111 ラット顔面神経切断により誘導される顔面神経核のプラスミノーゲンアクチベーターについて
…… 中嶋一行、Martin Reddington[1]、高坂新一、Georg W. Kreutzberg[1]
（国立精神・神経センター，神経研，代謝，[1]Department of Neuromorphology, Max－Planck Institute of Psychiatry）

112 グリオーマにおけるp53とCdk阻害蛋白質（p16, p21）の免疫組織化学的検索
…… 白石哲也、井上崇文、福山幸三、戸田啓介、田渕和雄
（佐賀医科大学　脳神経外科）

12：00～13：00　―― 昼　　食 ――

13：00～14：00　評議員会・総会（A会場）

14：00～15：00（脳障害・虚血・細胞死　Ⅰ）
座長：北大院・理・行動知能学　小池達郎

113 過剰なNa^+流入による培養上頸神経節細胞のアポトーシスの機構
…… 小池達郎、中山　恒、小田　毅、田中秀逸
（北大院理行動知能学、佐賀医科大）

114 培養上頸神経節細胞のアポトーシスのCa^{2+}による制御
…… 中山　恒、信川貴子、小池達郎
（北大院理行動知能学）

115 ミエリン形成前過程におけるシュワン細胞のアポトーシス
…… 中尾純治[1]、村瀬真一[2]、篠田　純[1]、川村光毅[2]、植村慶一[1]
（[1]慶應義塾大学医学部・生理学教室、[2]解剖学教室）

116 ラット中枢神経系由来神経芽細胞腫、B50とB104、で観察されたアポトーシスについて
…… 久永真市、岸本健雄
（東京工業大学・生命理工学部）

15：00～16：00（脳障害・虚血・細胞死　Ⅱ）
座長：愛媛大・医・第一生理　片岡喜由

117 脳虚血負荷による脳内Activator protein 1の変動
…… 東　泰孝、荻田喜代一、米田幸雄、章　　龍[1]、柳瀬尚人[1]、三谷　章[1]、片岡喜由[1]
（摂南大・薬・薬理、[1]愛媛大・医・第一生理）

118 タイプⅠ－NO合成酵素選択的阻害剤：δ－(S－methylisothioureido)－L－norvalineはラット一時的局所脳虚血後の梗塞巣を縮小する
…… 武藤　厚、杉山昌一、長藤寿昭、牧野俊彦、松居　徹[1]、宮内達雄、名畑博之
（中外製薬（株）富士御殿場研究所、[1]埼玉医大総合医療センター脳外）

119 脳虚血時のヒトグルタミン酸トランスポーターによるグルタミン酸の逆行性輸送について
…… 山下拓史、川上秀史、張　玉祥、中村重信
（広島大学医学部第三内科）

120 慢性脳血流低下による神経軸索とミエリンの経時的変化
…… 車谷隆宏、武田雅俊、工藤　喬、以倉康充、西村　健
（大阪大学・精神医学教室）

16：00～17：00（脳障害・虚血・細胞死　Ⅲ）

座長：金沢大・医・神経情報研伝達　加藤　聖

121 グルタミン酸細胞死と活性酸素種
…… 安井裕子[1]、馬渡一浩[2]、本間啓子[2]、加藤　聖[1]
（[1]金沢大・医・神経情報研伝達、[2]金沢大・医療短大・衛生）

122 遅延性神経細胞死における神経成長因子受容体の関与
…… 板野俊文、政田哲也[1]、徳田雅明[2]、松井秀樹[2]、長尾省吾[1]、畠瀬　修[2]、村上哲英
（香川医科大学、生物学、[1]脳神経外科学、[2]生理学）

123 過酸化水素の Glioma 細胞障害活性に及ぼす細胞内グルタチオン濃度の影響
…… 飯田昌孝、松本　清、坂上　宏[1]、竹田　稔
（昭和大学・脳神経外科、[1]第１生化学）

124 培養アストロサイトカルシウムパラドックス障害における $Na^+ - Ca^{2+}$ 交換系の役割
…… 田熊一敞、松田敏夫、橋本　均、浅野省一、馬場明道
（大阪大・薬・薬理）

Ｃ２会場（１Ｆ）

10：00～11：00（神経栄養因子　Ⅰ）

座長：岐阜薬科大学分子生物　古川昭栄

125 ラット大脳皮質におけるニューロトロフィンとその受容体蛋白質の発現
…… 福光秀文、古川美子、古川昭栄
（岐阜薬科大学分子生物）

126 BDNF による小脳顆粒細胞アポトーシス抑制の細胞内機構
…… 久保武一、野々村健、小島正己、榎戸　靖、畠中　寛
（大阪大学・蛋白質研究所・生合成）

127 ラットの生後発達に伴う脳のニューロトロフィン－３の変化
…… 仙波りつ子、加藤兼房
（愛知県コロニー・研究所）

128 レチノイン酸およびニューロトロフィンによる trk レセプター発現変化
…… 小林三和子、栗原堅三、松岡一郎
（北海道大学・薬・薬剤学）

11：00〜12：00（神経栄養因子　Ⅱ）

座長：愛媛大・医・神経精神　佐野　輝

129 プロサポシンの末梢神経再生促進作用のターゲット神経細胞

…… 小谷泰教[1]、松田正司[2]、阪中雅広[2]、近藤啓次[1]、上野修一[1]、佐野　輝[1]

（愛媛大・医・[1]神経精神、[2]第2解剖）

130 ウシ脳 ConA 結合性糖タンパク質中に存在する強疎水性タンパク質とその PC12 細胞に対する影響

…… 石岡憲昭、佐藤淳子

（東京慈恵会医科大学医科研・生化学）

131 可溶性 Myelin－associated glycoprotein（MAG）の神経突起伸展促進作用

…… 松田義宏、小糸寿美、山元　弘

（国立精神・神経センター神経研究所免疫研究部）

132 フローサイトメトリーで分取した胎仔脳ニューロン前駆細胞に対する成長栄養因子の影響

…… 山之端万里、村田康子、塚田裕三

（創価大学・生命科学研究所）

133 カイニン酸投与後におけるラット脳内 HGFmRNA 発現について

…… 金澤美穂[1]、俣賀宣子[2]、仙波純一[1]、三浦理絵[3]、深間内文彦[2]、中村敏一[4]、鬼頭昭三[1]

（[1]放送大学、[2]東京医科歯科大学難治疾患研究所、[3]Royal Free Hospital School of Medicine、[4]大阪大学医学部バイオメディカル教育研究センター）

12：00〜13：00　―― 昼　　食 ――

13：00〜14：00　評議員会・総会（A会場）

14：00〜15：00（神経栄養因子　Ⅲ）

座長：大阪大学・蛋白質研究所・生合成部門　畠中　寛

134 Hippocampal Cholinergic Neurostimulating Peptide（HCNP）Processing Enzyme の部分精製

…… 大塚康史、小鹿幸生

（名古屋市立大学・第二内科）

135 抑制性サイトカインによるミクログリアのサイトカインレセプターの発現抑制

……澤田　誠、錫村明生、丸野内棣

（藤田保健衛生大総医研応用細胞）

136 培養神経細胞における上皮増殖因子（EGF）のリン酸化シグナル解析

…… 山田雅司、榎戸　靖、池内俊彦、畠中　寛

（大阪大学・蛋白質研究所・生合成部門）

137 クリングル構造を持つ神経栄養因子

…… 浜之上　誠、竹本なぎさ、松本邦夫[1]、中村敏一[1]、中嶋一行、高坂新一

（国立精神・神経センター神経研究所・代謝研究部、[1]大阪大学医学部バイオメディカル教育研究センター腫瘍生化学研究部）

15：00〜16：00（細胞骨格・カルシウム　Ⅰ）

座長：上智大学・生命科学研究所・神経化学　熊倉鴻之助

138 脳ファシンの解析：アクチン線維結合・束化能に及ぼすドレブリンの影響

…… 佐々木洋、林　謙介[1]、白尾智明[1]、石川良樹、小浜一弘

（群馬大学医学部薬理、[1]同・行動分析）

139 アクチン結合蛋白ドレブリンAによる細胞骨格および細胞接着の変化

…… 池田圭朗[1,2]、白尾智明[3]、戸谷重雄[2]、植村慶一[1]

（慶應義塾大学・医・生理、[1]脳神経外科、[2]群馬大学・医・行動分析）

140 開口放出機構におけるアクチン・ネットワークの役割

…… 今泉美佳、御園生裕明、池田　顕、熊倉鴻之助

（上智大学・生命科学研究所・神経化学）

141 バナジン酸によるアストロサイト細胞骨格アクチンの再構成

…… 小山　豊、馬場明道

（大阪大・薬・薬理）

16：00〜17：00（細胞骨格・カルシウム　Ⅱ）

座長：大阪大学医学部バイオメディカル教育研究センター　祖父江憲治

142 ラットアストロサイトの細胞骨格に対するガングリオシドの作用

…… 伊藤仁一、磯部真理

（名古屋市立大学医学部・生化学Ⅰ）

143 分裂病患者死後脳左上側頭回における細胞骨格蛋白 fodrin の非対称性変化

…… 北村　登[1]、西野直樹、梶本康雄、白井　豊、楊　常青、小牟禮　修、橋本健志[2]、白川　治

（[1]神鋼病院・神経科、[2]兵庫県立高齢者脳機能センター、神戸大学医学部・精神神経科）

144 プロリン指向性蛋白質燐酸化酵素による MARCKS と MAP 2 の燐酸化反応

…… 山本秀幸、荒金　太、久永真市[1]、福永浩司、岸本健雄[1]、宮本英七

（熊本大学医学部・第一薬理、東京工業大学・生命理工）

145 ラットグリオーマC 6 細胞における容量性 Ca^{2+} 流入について

…… 竹村晴夫、井本憲志、坂野晶司、八田慎一、大鹿英世

（札幌医科大学医学部薬理学教室）

評議員会・総会　7月1日　13：00−14：00

A会場

〔議題〕

1．理事長報告
2．庶務報告
3．出版広報報告
4．プログラム編成報告
5．各委員会報告
6．平成7年度理事改選結果報告
7．平成6年度決算の件
8．平成8年度予算案の件
9．評議員選任の件
10．次期学会世話人及び開催地
11．その他

理事会議事録

○平成7年度第1回理事会

日　時：平成7年3月18日（土）
　　13：00～16：30
場　所：八重洲龍名館
出席者：宮本英七，野村正彦，竹田　稔，
　　加藤尚彦，畠中　寛，高坂新一，
　　御子柴克彦，小宮義璋，熊倉鴻之助，
　　芳賀達也，栗山欣弥，
　　柿本泰男，黒川正則（監事），
　　植村慶一（前理事長），
　　宮武　正（前会計担当理事），
　　中嶋照夫（第38回世話人代表），
　　福居顯二（第38回世話人），
　　井上順雄（第39回世話人）
欠席者：野口鉄也，三木直正（前研究助成金等候補者選考委員会委員長）

議　題：

1．理事改選結果報告について

平成7年2月16日に開票された理事選挙結果について，選挙管理委員会委員長赤川公朗氏からの報告書が示された。

理事選挙結果

日本神経化学会細則第2条および同第4条の規定により理事選挙を実施しましたところ、下記の通りの結果となりましたのでご報告申し上げます。

記

1．選挙経過

(1)　選挙日程
　神経化学　第33巻2号（1994年12月20日発行）公示の要領に従い実施した。

(2)　投票用紙の回収
　発送総数　2096通(但し受取人不明で23通は返送された)
　投票通数　833通(39.7%)
　無効通数　4通(選挙人不明等4通)
　有効通数　829通

(3)　開票場所
　八重洲龍名館

(4)　開票立会人
　岡本　仁
　小山　文隆

(5)　その他
　①　日本神経化学会会則第20条に従い、現理事名を記載した投票については該当理事のみを無効とし、他の記載された被選挙人については有効とした。
　②　氏名の誤記等については、特定の被選挙人と判断できる場合には有効とした。

2．得票順位

当　選	1位	高坂　新一
同	2位	御子柴克彦
同	3位	小宮　義璋
同	4位	熊倉鴻之助
同	5位	芳賀　達也
同	6位	栗山　欣弥

2．理事長・副理事長選出の件

出席理事による協議の後投票が行われ，理事長に宮本英七氏（熊本大学医学部薬理学）が，副理事長に小宮義璋氏（群馬大学医学部分子病態学）が，それぞれ選出された。

3．補充理事選出の件

得票数，専門分野および地域性等を考慮し，出席理事による協議の後投票が行われ，以下の3名を補充理事に選出し，前例に倣い文書で評議員の承認を得ることとした。

中嶋　照夫(京都府立医科大学精神医学)
加藤　兼房（愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所生化学）
渡邉　建彦（東北大学医学部薬理学）

4．担当理事選任の件

協議の結果，各担当理事（任期2年）を以下の通りに決定した。

庶　　務：芳賀　達也理事
会　　計：高坂　新一理事
出版・広報：畠中　　寛理事（留任）

5．各委員会委員長選任の件

協議の結果，各委員会の委員長（任期2年）を以下の通りに選任した。

科研費調査委員会：竹田　稔氏（留任）
国際対応委員会：植村　慶一氏
研究助成金等候補者選考委員会：御子柴克彦氏

また，宮本理事長より，学会の活性化や今後の方向性を検討するための委員会を設置することが提案された。協議の結果，新しい委員会として小宮副理事長を委員長とし，理事数名を委員に擁し主に在京の会員で構成する「将来計画委員会（仮称）」を設置することになった。

尚，委員の構成については各委員長が早急に選出し，決定することとした。

6．庶務報告

加藤前庶務理事より，庶務報告が行われた。

●総会員数（平成6年12月31日現在）
2,204名

名誉会員	5名
一般会員	2,164名
学生会員	2名
賛助会員	13名
団体会員	20名

●新入会員(平成6年1月1日～12月31日)
正会員　224名

●退会者（平成6年1月1日～12月31日）
正会員　173名

尚，評議員の退会者が2名報告された（1名は平成7年度末の退会申請者)。

7．会計報告

宮武前会計担当理事より，平成6年度（平成6年1月1日～12月31日）の決算報告がなされ，引き続き柿本監事より監査報告があり，了承された。

8．出版・広報報告

畠中出版・広報担当理事より以下の報告がなされた。

(1) 事務局報（神経化学Vol. 33－No. 2）出版の件

平成6年12月に予定通り発行された。

(2) 英文抄録の件

Neurochemical Researchの編集主幹のDr. Lajthaより第37回（平成6年度）学会の英文抄録を受領したとの連絡を受けている。

また，今まで抄録掲載誌を学会宛に寄贈してもらっていなかったため，掲載の確認が遅れることが少なからずあった。今後は，担当理事もしくは事務局に恵贈していただくよう，英文抄録の送付状にその都度お願いすることとした。

(3) 編集委員会設置の件

前回理事会で承認された編集委員会については，畠中出版・広報担当理事に委員の選考が一任されていたが，下記の通りに示され，了承された。

畠中　　寛（委員長／大阪大・蛋白質研究所・蛋白質生合成）
松岡　一郎（北海道大・薬・薬剤学）
岡本　　仁（慶應義塾大・医・生理学）
佐野　　護（愛知県コロニー）
佐野　　輝（愛媛大・医・神経精神医学）

尚，この委員会は34巻3号より実務的な作業に入ることと，今後の学会誌の各号の概要について確認がなされた。

また，今まで学会のプログラムを，全国の主な大学の医・歯・薬学部等600講座に回覧していただくようPR用に無料送付していたが，今後，プログラムは学会誌の1号（来年からは2号）となるため，先方の必要に応じて購入していただくこととし，無料配布は廃止することが了承された。

9．委員会報告

(1) 研究助成金等候補者選考委員会

欠席された三木前委員長の代わりに事務局より以下の報告がなされた。

① 日産学術研究助成の件

本学会より推薦した10件のうち，一般研究に池中一裕氏（国立生理研）が，また奨励研究に今泉美佳氏（上智大・生命研）が採択された旨の連絡を受けている。

② ブレインサイエンス振興財団研究助成の件

本学会より推薦した3件のうち，海外研究者招聘助成において，ハワード・シュルマン教授（米国スタンフォード大）を招聘する宮本英七氏が採択された旨の連絡を受けている。

(2) 科研費調査委員会

竹田委員長より以下の報告がなされた。

科研費調査委員会報告

＊平成5・6年　委員会活動について

① 平成5年3月、前委員会（佐武　明前委員長）から引き継いで新しい委員会が発足

② 科学研究費審査委員候補者選出選挙について

新しい分科「神経科学（細目：神経化学・神経薬理学，細目番号：832）」に係わる、審査委員の選挙について日本薬理学会及び日本学術会議にて情報収集を試みたが、審査委員の選考については、はっきりとした規定はなく、更に情報の入手と学術会議への働きかけが必要の感がある。

③ 委員会活動について

平成5・6年度の「細目番号832」における応募状況、採択状況、採択率、採択課題の日本神経化学会会員の占有率などを文部省にて調査し、神経化学会総会にて報告した。

④ 研究者番号の登録について

1）調査発送数

・第1回目調査(H.5 3/22 2007通発送)
・第2回目調査(H.5 7/30 1046通発送)
・第3回目調査(H.6 5/10　647通発送)
・第4回目調査(H.7　4月発送予定)

＊尚、平成5年より入会申込書の書式を改め、入会時に研究者番号の有無を記載する項目を設けた。

2）登録者数について（平成7年3月8日現在）

① 研究者番号　有　　904名
② 研究者番号　無　　722名
③ 未登録者　　485名

(3) 国際対応委員会

栗山前委員長よりAPSNについての報告がなされた。

10. ISNの件

栗山組織委員長より，第15回国際神経化学会議について以下の報告がなされた。

① 演題数，参加登録者数について
② 募金関係について
③ 補助金関係について
④ 日本神経化学会との新たな補助金についての「覚書」について

11. 評議員推薦の件

下記の評議員候補者を審査し，了承されたため，次回の評議員会・総会に諮ることとした。

● 齋藤　利和（札幌医科大学）
● 豊島　　至（秋田大学・医）
● 武田　雅俊（大阪大学・医）
● 田中　英明
（熊本大学・大学院・医学研究科）
● 宮本　　篤（札幌医科大学）

（受付順／所属は申請当時のもの）

12. 第38回日本神経化学会の件

中嶋世話人代表及び福居世話人より準備状況等の説明がなされた。

13. 第39回日本神経化学会の件

加藤世話人代表及び井上世話人より，日程や会場等の報告がなされた。

期　日：平成8年10月2日(水)～4日(金)
会　場：横浜シンポジア，
神奈川県民会館他

14. その他

(1) 臨時会員制度制定の件

加藤前庶務理事より，臨時会員制度を

盛り込んだ会則改訂案が示された。早急に審議をすすめ，第39回日本神経化学会より適用できるようにすることとなった。また，徴収された臨時会費は本部事務局の収入とするのか，大会事務局の収入にするのかという議論が，なされたが，臨時会費は本部事務局の収入とするものの，この件とは別に学会からの「大会運営補助費」の金額を今後見直すことで合意を得た。

(2) 日本神経化学会への参加による学会認定（専門）医制度の単位取得の件

先般来より協議している本件については，既に日本神経学会の認定医制度については，どのようにすれば日本神経化学会への参加が単位取得となるのかのマニュアルは双方において確認ができている。

新たに認定（専門）医制度の単位取得として認めていただいた2学会については，先方より下記の申し入れがあり，了承された。

① 日本小児神経学会

学会参加費の領収書または参加証のコピーを先方の認定医研修手帳に添付する。

尚，出席で1点，筆頭演者としての発表で2点，単位を取得できる。

② 日本良導絡自律神経学会

本部事務局が毎年先方に連絡を取り出席票を請求し，参加者に対し大会受付で出席者に渡す。

尚，出席で20単位，学会発表で10単位，取得できる。

(3) 第40回日本神経化学会候補地の件

植村前理事長より片岡喜由評議員（愛媛大学）から平成9年の第40回日本神経化学会の世話人代表をお務めいただける旨のご連絡を頂戴しているとの報告がなされた後，同じ大学の教授として柿本監事より状況説明がなされ承認された。

(4) 学会宛のインフォメーション等について

事務局より学会宛に以下の案内が届いている旨の連絡があった。

① ENA Annual Meeting
1995年9月3－7日
（於：アムステルダム）

② 新技術事業団より「さきがけ研究21」研究者募集について

理事長あいさつ

日本神経化学会理事長　宮本　英七
（熊本大学医学部・第一薬理）

3月に開催された，理事改選後の新理事会で，植村慶一教授の後をついで理事長に選出されました。突然のことでもあり，私自身，歴代の理事長をつとめて来られた超弩級の先生方と同じ立場に立つとは，もとより考えておらず，驚きもし責任の重さにたじろぐ思いを致しました。しかし，私のささやかな研究生活を振り返ってみても，大学院生の時から，日本神経化学会（当時は神経化学懇話会でした）を主な学会として，先輩達に鍛えられ，育てられてきたことを考えますと，人一倍愛着もあり，学会発展のためお手伝いをしなければならないと思い返した次第です。足りない点が数多くあると思いますので，会員の皆様のご協力，ご援助をお願い致します。

アメリカでは，1989年からの10年を「脳の10年」と名付け，国をあげて，研究推進をはかることにブッシュ大統領が署名しました。日本国内では，「脳の世紀」と呼ばれるキャンペインが繰り広げられ，脳研究がさかんになるような機運を高めようとしています。日本神経化学会内では，長年の努力が報いられ，少し前のことですが，重点領域研究が取り上げられましたし，文部省科学研究費の中の分科・細目の一つに「神経化学・神経薬理」が新しく加えられました。学会内で，地道に，委員会活動を継続頂いた先生方のお陰でありますとともに，漸く，文部省も脳研究に目をむけてきた現われと考えられます。

翻って，私達の学会についてどうであるかを考えてみたいと思います。日本神経化学会は，平成7年7月，京都で開催される学会が第38回を数え，会員数は2,200名を越えています。学会に提出される演題数も，今年を例外として年々増加して来ています。その意味では，順調に発展の途をたどっていると言えましょう。その礎を築いて来られたのは学会の先達であり，約10年前に学会運営の改革に踏み切った会員の努力であったと思います。

最近，いくつかの学会で危機感がもたれ，新しい若い力とエネルギーを吸収するにはどのようにすればいいか議論されています。その方法は，決まったものではなく，色々なやり方があることはいうまでもありません。議論を聞いて，必要だと感じられることは，学会が開かれたもので閉鎖的になってはいけないということでしょう。神経に関する研究の発展も，培養神経細胞を用いる方法，分子生物学，transgenic mouse，knockout mouseを用いる方法などが，これまで特に脳を研究していない人によって行われて導入され，新しい境地を開拓し，研究の飛躍的な発展をもたらしました。即ち，他分野からの新しい方法，研究者そのものの受け入れがスムーズに行われ，学会の中に，積極的に迎え入れることが必要のように思われます。日本神経化学会が，「化学」のみを方法論とするのではなく，神経生物学のあらゆる方法論を取り込んだ演題の発表の場とすることを標榜して，かなりの年月が経過しています。脳機能や脳・神経の疾病を解明するには，学際的な方法論を必要とするからです。神経や脳の様々な現象の根底に，物質の動きがあり，物として捕捉していくことの方法論が私達の学会の原理でありますが，それを支えるあらゆる方法論，研究者を謙虚に受け入れていくべきでしょう。分子生物学を手法とする研究者がもっと演題を応募してもいいと思います。このような“開かれた”学会にしていくことが，学会そのものを活性化し，会員の研究の質を高めていくことになると考えます。

新しい理事会では，学会運営を検討する新委員会を発足させることに決定しました。小宮義

璋委員長のもとに，委員会が発足し，多角的に検討して頂くことに致しました。学会の歴史の中では，必然性を持っていた「きまり」をもう一度見直してみようということです。例えば，シンポジウムは一般演題と区別して特別扱いされるので，むしろこれを避け，一般演題の中での議論が重視されてきました。しかし，現時点では，緊急且つ重要な課題を取り上げ，会員外からも研究者の参加を呼びかけて議論することが学会内に大きなインパクトを与えることになると考えます。特別講演，教育講演なども，学会会期中の行事として含めていいのではないかと考えたりします。また，この機会に，関連他学会との連係も十分に考慮していくべきものと思います。規制緩和ではありませんが，学会発表の手続きや抄録についても，考え直すべきものでしょう。学会が緊張をもった第一線研究の発表の場として活動していくよう，次代を担う若い研究者に改善策を考えて頂きたいと思います。

昨年からの懸案として，学会の会誌を定期的に発行していくこと（この原稿が第１号に掲載されました）や名簿の整備が検討されています。これらは，学会の足許を固めていく作業だと思います。

ご承知のように，今年７月には，第15回国際神経化学会議が国立京都国際会館において，栗山欣弥会長の下で開催されます。1973年に，第４回会議が塚田裕三会長によって開催されて以来であり，数少ない会議の中で２回も日本で開催されることに，日本神経化学会の質，量にわたる充実振りが感じられます。日本で開催される当該国際学会でありその準備には日本神経化学会として出来る限りバックアップして参りました。いよいよ，会議が開催される段階になるに当たり，会員の皆様のご協力を心からお願い致します。

きたるべき21世紀にむけて

日本神経化学会副理事長　小宮　義璋
（群馬大学医学部分子病態）

後期入学試験を受験した400人分の答案の採点をどうにか済ませて，ヨレヨレになった頭で3月18日の理事会に出席した。席上まだ事態をよく理解できないでいるうちに副理事長という大役を仰せつかってしまった。更に宮本新理事長の横に，植村前理事長にはさまれた形で座らせられて何となく生きた心地がしないでいる間に将来計画委員会委員長という重責まで背負わされるハメになってしまった。

大学へ戻って合格候補者の選定作業をしながら，“忙しすぎてとてもやってられないよ”などと弱々しく呪いの言葉をはいてみても後のまつりである。追い打ちをかけるように畠中出版広報担当理事から今度のニュースに副理事長の「挨拶，抱負，学会についてのお考えなどを，記載することが決定しました。」という速達が届いたり，宮本理事長から「委員などいろいろお考え頂いていると思います。」というファクスがはいったりして，追いつめられたような気分になっているところに，新入生の一人が来年他大学を受験したいので休学させてくれと電話してきた。両親を交えて3者面談をしてみても，本人は確信犯で説得の余地はなく，すっかり厭世気分になって教室に戻ってきてブツブツいっていると，教室員の皆さんに『デキの悪い学生の相手をする時間を少しはカットして学会のお世話もしなくてはいけません。』と諫められてしまった。それもそうだと思いなおして畠中先生のお手紙を取り出して見ると，欄外に「締切はくれぐれもお守り下さい。」と達筆で但し書きがついていた。

この頃ゆっくりとものを考えている余裕がないのは忙しすぎるせいであろうか，それとも年齢のなせるわざであろうか。柿本元理事長のお世話による奥道後温泉の学会であれだけ熱っぽく神経化学会の現状と将来を語り明かしたのは1980（昭和55）年の秋のことであったから，早くも15年が過ぎ去ろうとしている。考えてみるとその時と全く同一のメンバーがいまだに神経化学会の将来計画がどうのこうのといっているのは，どこか違うような気がする。このようなトップダウン方式を我々は拒否した筈ではないか。それを今我々がやろうとしているなんて――――。

それでは私は一体何をしたらいいのだろうか？思いだすのはやはり同じ頃，科学研究費に神経化学の細目を新設することを目的として活動を開始した科研費調査委員会のことである。ここでもむこう見ずの若者達は気が短く，ともすれば突っ走りがちであった。それを我慢強く見守って下さり，時には共に熱く，時には冷静に現実に引戻して下さった佐武委員長の役割は特に大きかったように思える。こんな大役ができるかどうか不安ではあるが，これが今の私に課せられた使命なのではないだろうか。どうか神経化学会の若手の会員諸君，自分達の将来を共に考え，それを実現するために自ら名乗りをあげてほしい。そして同時に古手の会員の皆様，これはと思う若手会員を推薦して頂きたい。

第15回　国際神経化学会議（ISN'95）開催にあたって

ISN'95　組織委員長　栗山　欣弥
（京都府立医大・薬理）

日本神経化学会の全面的な御支援を得て，鋭意準備を進めて参りましたISN'95の開催も間近かとなって来ましたので，御挨拶と共に，現在までの進捗状況を御報告申し上げます。

特別講演のほかに，現在，シンポジウム13，コロキウム15，ワークショップ16が予定されて居り，またすでに800題以上の一般講演の申し込みが届いて居ります。これらの本会議における発表に加えて，すでに13のサテライト・シンポジウムが各地で計画されて居り，これらのサテライト・シンポジウムにおける発表を加えると膨大な数の神経化学に関する研究成果の提示が得られるものと期待している次第です。

ただ気掛りなことは，我が国の経済不況や兵庫県南部大地震の影響もあって，組織委員会の諸先生に懸命な御努力を頂いているにも抱らず募金の集まりが悪く，他面，円高の影響から，外国からの参加者が伸び悩んでいることであります。7月1日～2日の第38回日本神経化学会（会長：中嶋照夫教授）に引き続いて，7月2日～7日の間，このISN'95は同じ会場，すなわち，国立京都国際会館（宝ヶ池）で開催致します。また両学会共通の懇親会なども企画して居ります。

前々回のISN'91（シドニー）で本学会の京都における開催が決定されて以来，4年間にわたり物心両面から御支援を頂いた日本神経化学会の皆々様に更めて謝意を表しますと共に，是非多数の方々が参加され，本学会を盛り立てて下さいます様に，心からお願いを申し上げる次第です。

前理事長あいさつ

植村　慶一
（慶応大学医学部・生理）

この度，畠中出版・広報担当編集理事の御努力により，［神経化学］の回数を増やし，充実して，会員相互の連絡，交流を図ることになりました。ここに最初の号が出来上がったことを喜び，お互にこれを充分に活用するように致したく存じます。

日本神経化学会は今年38回を迎え，会員数も2,000名を超える学会に成長して参りました。今年は特に日本で2回目の開催となる第15回国際神経化学会と多くのサテライトシンポジウム，さらには第4回ＩＢＲＯ世界大会が続けて京都で開催されるため，関係の方々をはじめ会員の皆様に大変な御尽力を頂いていることに厚く感謝致し，今後の御協力をお願い申上げます。

神経化学会では伝統的に詳しい予稿を提出し，それを審査すること，発表と討論時間を充分とり，厳しく討論すること，座長には比較的若い研究者に依頼して活性化することなど他の学会とは異なった特色がありました。情報化，国際化の大波を迎えて，学会も優れた伝統を守りながら，時代に合った新しい変革を行なう必要がありましょう。新しく将来計画委員会が作られ，今後の学会の在り方を検討することは時期をえたものであり，活躍が期待されます。

私は1993－1995年の間，日本神経化学会の理事長を勤めさせて頂き，この度，宮本新理事長にバトンタッチ致しました。在任中の皆様の御厚情に感謝し，会員の皆様の益々の御活躍，御発展をお祈り致します。

神経化学　34巻　第1号

平成7年5月30日発行
編集兼発行者　日本神経化学会
代表者　宮本　英七
発行所　日本神経化学会
〒113 東京都文京区本駒込5－16－9
財団法人 日本学会事務センター内
印刷所　株式会社 清真印刷